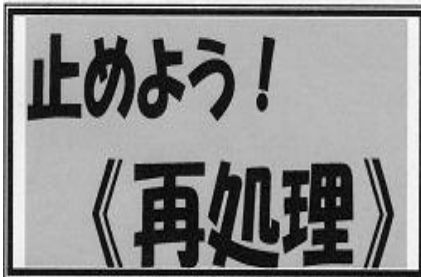


三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) **三陸の海・岩手の会**
 郵便振替 02240-5-102650
 ホームページ 《再処理/岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
 《本紙の全バックナンバー掲載》

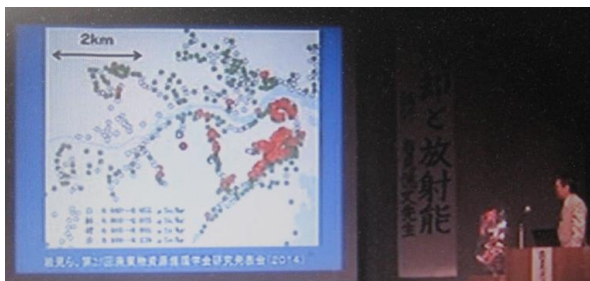


《**天恵の海**》
 2015(平成27)年
 11月 4日
 第159号
 編集事務局 S.Oshida
 TEL・FAX 019-623-1636

放射性汚染物の焼却は即時中止を!

演題：焼却と放射能 岩見億丈医師講演会

環境省と地方自治体は、放射性物質の再拡散を危惧する住民の声を傾けず、自治体が管理する一般ごみ焼却炉で放射性セシウムに汚染された廃棄物等を焼



「一般廃棄物焼却炉で放射能汚染物を燃やすことは放射能拡散となる」と警告を発している岩見億丈医師が、九月五日盛岡市内で講演を行いました。岩手県内外各地から二〇〇人を超える参会者があり、福島原発事故で飛散した放射能から身を守るために、今何が大切なのか講師の話に熱心に耳を傾けました。

岩見さんは、焼却炉周辺の土壌三二六試料に含まれる放射性セシウムを調べ、廃棄物資源循環学会研究報告会でその成果を発表しました。

今号は、盛岡市での講演会の内容の、特に後半部分をもとめたものです。
 (編集部・尚)

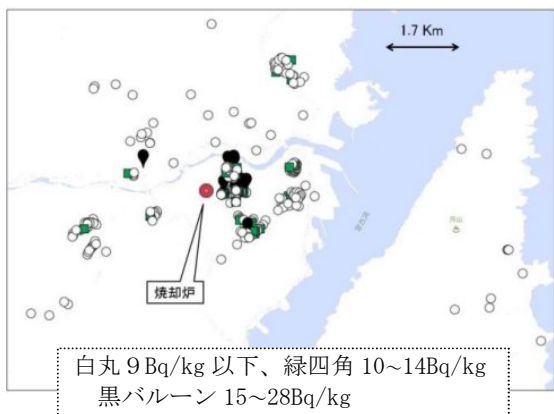
却処分しています。焼却処分を安全とする説明に、「焼却炉のバグフィルター(BF)が排ガス中の放射性セシウムの99.9%を回収し除去する」という仮説が引用されています。この仮説には科学的根拠がなく、排ガス中放射性セシウムの数十%がバグフィルターを素通りし大気中に排出されています。

ごみ焼却炉の仕組み
 燃焼ガスを200℃に冷却しバグフィルターへ
 一般焼却炉では排煙部にバグフィルターをつけて、煤煙を捕集し環境へは有害物質を出さ

ないとしています。バグフィルターは耐熱性、耐腐食性のあるガラス繊維等で作られた布で、焼却炉の排ガス中のばい塵(ダスト)を減らすために使われています。しかし、このガラス繊維では気体状態の有害物質は除去できないので、高温で燃焼させた排ガスを急速に冷却します。これにより気体状態の有害物質を固体あるいは液体に変化させ、バグフィルターで捕集するという仕組みです。確かにこれにより多くの有害物質を除去出来ます。温度が低いほど良いが通常200℃前後で通過させます。(※編集者注：200℃前後にするのは、これ以上低下させると冷却熱交換の時間とダイオキシン対策上の問題があるようです。)

しかしどうしても、浮遊粒子状物質であるPM2.5と気体状物質がバグフィルターを通過していきます。

(本紙第一四一号参照)
焼却物と焼却灰の



土壌測定結果
 図 宮古市焼却炉周辺セシウム134土壌中濃度分布

測定値の統計処理
 地方自治体は焼却物と焼却灰の放射能濃度と重量を測定し公表しています。この資料を用いると、灰として回収できず消えてしまった放射性物質の量を統計的に算出できます。岩見さんの計算では、宮古市焼却炉で約2割の放射性セシウムが行方不明であり、遠野市焼却炉では約3割が行方不明であるとの結果です。従って、行方不明の分、大気へ排出されたと判断出来ません。

焼却炉に近いほど高い土壌中の放射性セシウム

焼却炉からの距離	1.7km未満	1.7km以上
標本数	164	162
セシウム134 (Bq/kg)	4.4	2.5
濃度比 (4.4/2.5)	1.7倍	
セシウム137 (Bq/kg)	14.3	6.2
濃度比 (14.3/6.2)	2.4倍	

岩見さんを中心とする宮古のグループは炉から放出された放射性セシウムの有無確認のため、昨年九月～十一月まで、地域の土壌を集めゲルマニウム半導体測定器で調べました。そのサンプル総数は宮古市焼却炉周囲半径9キロ以内三二六箇所です。その結果突き止めることが出来たのは、焼却炉周囲一・七キロ未満の地点は、一・七キロ以上の地点に比べ、セシウム134は一・七倍、セシウム137は二・四倍高かったということです(左表)

また、セシウム134(半減期2・1年)とセシウム137(半減期30・

2年)の放射能の比を調べ、減衰値を換算すると、二〇一一年三月時点で約1・1となり、福島第一原発由来であることは疑いありません。焼却炉以外の要因がないことから、この放射性セシウムの異常上昇値は焼却炉が原因であると結論出来ます。

土壌で発見された過剰な放射性セシウムの総量は、行方不明だった約二割の放射性セシウムの総量と大方一致しており、「捕捉出来なかつた推定量」と「実際に周辺土壌に存在した量」は整合性があり、環境中への飛散は疑いありません。

「不検出」
宮古市と遠野市の排ガス中セシウム137の濃度がグループの研究から推定すると1ベクレル/立方メートルであり、現行の測定法ガイドラインの検出下限値2ベクレル/立方メートルに達せず、仮に排ガス濃度測定が科学的に行われたとしても不検出とされる数値です。検出下限値を0・1ベクレル/立方メートルにし排ガス中濃度を測定すべきです。

放射能を漏らす巨大焼却炉

岩見先生は、この研究を踏まえて以下のような提言を行っています。

高濃度の放射性物質を含む廃棄物を一般廃棄物焼却炉で処分することは即時中止すべきである。これらの廃棄物は福島原発周囲に集めて管理すること。福島住民の移住を援助すること。そして、大気に飛び散った放射性セシウムは外部被曝だけでなく内部被曝も引き起こす。予防原則を貫くべきである。

バグフィルターは万能ではなく、水銀除去率は七〇%、ダイオキシン除去率は十%と言われている。一般廃棄物焼却炉からの水銀、カドミウム、鉛の排出は現在の日本では法的規制対象となっていない。これらの有害物質は二四時間濃度モニタリングのない総量規制的方法により管理される必要がある。焼却炉で燃やすごみの総量を減らす努力が主権者である国民一人一人に求められている。放射能を漏らす巨大な焼却炉。それは原発と再処理工場であり廃止が必要である。

放射能汚染農林副産物 焼却は管理放棄の放射性物質を増やす

まず放射能汚染の現実をリアルに認識しよう

今、岩手県には放射性セシウムが基準値越えした農林副産物が、八〇〇ベクレル/kg以下が五万三〇二六ト、八〇〇〇ベクレル/kgを超えるものが五〇七・二トも発生しています。しかもその汚染牧草の最高汚染濃度は、九万五を超えている事が開示資料から明らかになっています。これらの多くが一般焼却炉でごみに混ぜて薄めて焼却されつつあります。そもそも八〇〇ベクレル/kgを超えた汚染物は各自自治体から環境省に申請して指定廃棄物となり国の管理下になる筈ですが、岩手県では農林副産物についてはまだどこも申請していない状態です(平成二七年八月)。従って、八〇〇〇ベクレル/kg以上のものには、国も自治体も手を出しません。しかし、既に試験的に焼却が行われ、今後八〇〇ベクレル/kg以上のものまで焼却予定になっています。

す。数十%が漏れるということは、八〇〇〇ベクレル/kg越えの汚染物を焼却すれば相当量が大气に放出され市の境を超えて県全体の問題になると思います。県内で発生した放射性物質に汚染された農林副産物について、発生量・処理量の内訳は非開示とされています。市民グループが異議申立をしました。審査委員会

で非開示が妥当との判断が下されました(平成二七年九月八日)。風評被害により率直な意見が妨げられるためとのことでした。**予防原則の徹底を!**
焼却されれば、更なる人々の被ばくや農産物の汚染等実害が心配されます。岩見先生からもお話し頂きましたように、排ガス中の放射性物質を正しく測定する事すら行われていません。
行方不明の放射能を少なくすることが大切です。環境で長く存在する汚染物は人間の管理範囲から手放してはなりません。予防原則で、最善を尽くして子孫を守る方策を一刻も早く立案してほしいものです。(館澤みゆき)

原発の再稼働は許さない! 核のこみをふやすな! 高レベル放射性廃棄物の最終処分を考える集会

主催: 集会実行委員会
十一月十四日
十三時半～十六時
岩手県公会堂大ホール
「再稼働で増える核のこみ」
どうするその処分?
講師 伴 英幸さん
(原子力資料情報室 共同代表)

小さき声のカン

鎌仲ひとみ監督作品
十一月二一日(土)
◇奥羽キリスト教センター
(盛岡市大沢川原)
①十時半②十四時半
監督講演十二時四十分
◇認定こども園・ひかりの子
2F(紫波町下丸森)
③十八時

「八月二八日付第一五八号記事一部訂正」
一面図: 加圧水型原子炉の説明文に「高温高圧水蒸気」など不正確な表現がありましたので、九月三日に「再訂版」を発行し当会ホームページに掲載してあります。謹んでお詫びし訂正致します。